

# 新しいシンジヨはじまる。

NEWS  
1

## 自立心・対話力・創造性をはぐくむ

### 学長 Message

将来何が起こるかわからない、不確実な時代が訪れています。図らずしてコロナ禍が証明したように、これまでの知識が全く役に立たない状況はいつ起こっても不思議ではありません。この先、不確実な時代を生きる若者には、どのような力が必要でしょうか。神戸女子大学・神戸女子短期大学では、これまでも「自立心・対応力・創造性」を教育目標にかかげ、誇りをもって学生一人ひとりをきめ細かに成長させる教育を行ってきました。

これからの時代は知識を授けるだけでなく、自ら知識を求め、仮説を立て、考え、判断する力を涵養せねばなりません。それが大学としての責務だと考えています。2022年度からは授業時間のリニューアルのほか、アクティブラーニングの強化やオンライン・対面授業の併用など、さまざまな工夫を行って、時代に対応する女子教育を追求していきます。

## “学び”を、さらに進化

### 授業の改革により、自立心・対話力・創造性の涵養をさらに進展

学生が自ら考えて行動するアクティブラーニングやICTの積極的な導入により、学生の学びへの意欲を引き出します。各教員が目的に応じて工夫を凝らした多様な授業を展開し、教育効果を高めます。

授業例と育まれる力



#### グループワーク

1~4回生の混合グループで主体的に学び合い、知識や熱意を共有する授業



#### ペアワーク

サービスの提供側と顧客側となり、協働しながら作品を作り上げる実践的な授業



#### 考え・発信する時間

自分で調べたり、チャット機能で意見交換したりしながら考えを深める授業



#### 学外指導者による遠隔授業

学外施設の指導者にオンラインで現場から参加いただき、現場のリアルな状況の理解を深める

自ら考える力  
表現する力  
協働する力  
解決へ導く力  
自主学習する力  
etc

### 授業時間をリニューアル

学生参加型の授業や工夫を凝らした授業を実施しやすくするため、授業時間をリニューアルします。従来は90分×15週でしたが、2022年度からは105分×13週とすることで、授業期間外における学生の主体的な活動のさらなる充実にもつながります。

105分にすることで、上記のような授業の充実だけでなく

15週  
(半期)

13週  
(半期)

授業  
期間外  
の活動の充実

にもつながる

### 夏・冬・春の授業期間外の活動を充実

授業期間が13週になることで、国家試験や教員採用試験の対策を行ったり、留学やインターンシップでさまざまな経験を積んだりするなど、これまで以上に情熱を注ぎたいことに時間を費やせるようになります。そのために各種サポート体制を充実させ、一人ひとりを手厚くフォローしていきます。

神戸女子大学 神戸女子短期大学  
学長 栗原 伸公